2026 年 11 月 25 日
株式会社ユビキタス AI

PRESS RELEASE

ユビキタス AI、SBOM 統合型ソフトウェアリスク管理プラットフォーム「ONEKEY Platform」の取り扱いを開始

― 脆弱性トリアージ機能と CRA 対応レポート機能で、調査・判断・対応の負荷を削減 ―

株式会社ユビキタス AI（本社：東京都新宿区、代表取締役社長 CEO：大吉 裕太、以下「ユビキタス AI」）は、独 ONEKEY GmbH（本社：ドイツ・デュッセルドルフ、以下「ONEKEY 社」）が開発する、SBOM（Software Bill of Materials）を起点に組込み製品のソフトウェアリスク管理を一元化するプラットフォーム「ONEKEY Platform」の取り扱いを、2026 年 11 月 25 日より開始いたします。

ONEKEY Platform は、既存の SBOM とファームウェア（バイナリ）解析結果を一元管理し、組込み製品に実際に搭載されているソフトウェア構成を可視化するプラットフォームです。検出したコンポーネントと既知の脆弱性情報を自動照合したうえで、ファームウェアバイナリに含まれる情報をもとに製品への実際の影響度を評価し、対応すべきリスクを自動的に絞り込む脆弱性トリアージ機能を備えています。これにより、SBOM を作成・管理するだけでなく、実際の製品への影響を踏まえて、優先的に対応すべき脆弱性を判断するプロセスまで効率化します。こうした機能を背景に、ONEKEY Platform は、通信・ネットワーク機器、医療機器、産業オートメーションなど、さまざまな分野のグローバル企業で導入実績があります。

さらに、欧州サイバーレジリエンス法（CRA）をはじめとする国際的な規制・標準への準拠状況を条項単位で可視化し、証跡やレポートとして出力できる機能を備えています。本製品の取り扱い開始により、組込み製品を開発・製造するお客様の脆弱性対応における調査・判断・対応の負荷軽減を支援します。

■背景

IoT・組込み機器の普及に伴い、製品に搭載されるソフトウェアの構成は年々複雑化しています。自社開発ソフトウェアに加え、OSS（オープンソースソフトウェア）、委託先による開発、購入したミドルウェア、BSP（ボードサポートパッケージ）など、一つの組込みソフトウェアシステムを構成するために多数の担い手が関与しており、その構成要素すべてについてソースコードや SBOM を取得できるとは限りません。また、SBOM を入手できた場合でも、その精度を保証することは容易ではありません。

加えて、CRA（欧州サイバーレジリエンス法）をはじめ、無線機器指令（RED）、IEC 62443-4-2、ETSI EN 303 645、英国 PSTI 法など、製品セキュリティに関する国際的な規制の施行や標準の整備が相次いでいます。国内でも、2025 年 3 月に IPA（情報処理推進機構）による「セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度（JC-STAR）」の運用が開始されるなど、国内外で規制・認証制度の整備が急速に進んでいます。

こうした規制・認証制度への対応では、SBOM を整備するだけでなく、製品に含まれるソフトウェアを継続的に把握し、新たに発見される脆弱性が自社製品に与える影響を判断したうえで、対応状況を証跡として管理していく必要があります。グローバルに製品を展開する国内製造業企業にとって、製品ライフサイクルを通じたソフトウェアリスク管理の重要性と、それに伴う開発・運用現場の負荷は今後さらに高まることが想定されます。

■ONEKEY Platform の特長

1. SBOM とファームウェア SCA の統合

既存の SBOM（CycloneDX 形式）を製品・バージョン単位で取り込み一元管理できるほか、ソースコードが提供されないバイナリファームウェアについても、バイナリ SCA（ソフトウェアコンポジション解析）により SBOM を生成できます。ソースコード由来の情報と、実際にファームウェアへ搭載されているソフトウェアの実態をあわせて把握することで、SBOM の有無や作成方法に左右されずに製品構成を可視化します。生成・統合した SBOM は、CycloneDX および SPDX 形式で出力できるほか、VEX（製品が脆弱性の影響を受けるかどうかを示す情報）を付加した形での出力にも対応します。

2. 脆弱性トリアージ機能

検出したコンポーネントと既知の脆弱性情報を自動照合したうえで、ファームウェアバイナリに含まれる情報をもとに、検出された脆弱性が実際の製品にどの程度影響するかをスコアリングし、優先的に対応すべき脆弱性を自動的に絞り込みます。これに加え、コンポーネントや脆弱性の種別ごとに判定ルールを定義して以降の解析結果へ自動適用する機能、既に対応済みのファームウェアの評価結果を新しいバージョンへ引き継ぐ機能、コンポーネントの提供元から提供された VEX ファイルを取り込んで既存の評価に反映する機能など、複数のトリアージ機能を用途に応じて使い分けることができます。
これにより、大量に検出される脆弱性の中から、実際に自社製品で対応すべき項目を効率的に絞り込み、調査・判断にかかる工数を大幅に削減します。

3. CRA などの規制・標準対応を支援するレポート機能

CRA をはじめ、EN 18031-1、IEC 62443-4-2、ETSI EN 303 645、英国 PSTI 法など、主要な国際規制・標準への準拠状況を条項単位で可視化し、対応の抜け漏れを一目で把握できます。判定結果は担当者が確認・上書きでき、対応状況や証跡資料は一式でダウンロードできるほか、対応項目を CSV／JSON 形式で書き出すこともできます。

4. 製品ライフサイクルを通じた継続管理

新たに公開された脆弱性情報を、登録済みの製品・ファームウェアと継続的に照合し、影響を受けるバージョンを迅速に特定します。解析結果や対応状況、対応履歴を一つの基盤で管理できるため、製品出荷後も継続して求められる脆弱性対応の迅速化と管理負荷の軽減を支援します。

■対応ファームウェア形式（一部抜粋）

150 種類を超えるアーカイブ、圧縮形式、実行形式、ファイルシステムを再帰的に展開・解析することが可能です。7-Zip、GZIP、Zip、Docker image などのアーカイブ・圧縮形式、ELF 32/64-bit、Arm/x86 Linux カーネル、Intel HEX などの実行形式、SquashFS、UBIFS/UBI、JFFS2、QNX Image Filesystem (IFS)、VxWorks MemFS などのファイルシステム・ファームウェアイメージ形式に幅広く対

応します。あわせて、RTOS（組込み OS）やベアメタル環境のファームウェアについても、構成するコンポーネントを検出対象としています。ご相談に応じて、独自・ベンダー固有形式への拡張対応も可能です。

■販売概要

製品名	ONEKEY Platform
URL	https://www.ubiquitous-ai.com/products/onekey-platform/
取り扱い開始日	2026 年 11 月 25 日
開発元	ONEKEY GmbH（本社：ドイツ・デュッセルドルフ）
提供形態	SaaS
販売・サポート	株式会社ユビキタス AI

■今後の展開

ユビキタス AI は、中期戦略において IoT セキュリティを成長事業の中核に位置付け、組込みソフトウェア開発で培ってきた技術と知見を基盤に、セキュリティ製品の拡充や脆弱性検証、次世代セキュリティ技術への取り組みを進めています。

このたびの ONEKEY Platform の取り扱い開始により、SBOM を起点としたソフトウェア構成の可視化から、脆弱性の影響判断、規制対応、出荷後の継続管理まで、製品ライフサイクル全体にわたるセキュリティ支援をさらに強化してまいります。

今後も、長年培ってきた組込みソフトウェア開発・セキュリティ検証の知見と、国内外の優れたセキュリティ技術を組み合わせ、お客様の製品競争力向上に貢献してまいります。

■ONEKEY GmbH について

ONEKEY GmbH は、2020 年にペネトレーションテストを手掛けるサイバーセキュリティ企業からスピンオフして設立された企業です。ドイツ・デュッセルドルフに本社を置き、Black Hat や DEF CON などの国際的なセキュリティカンファレンスでの発表実績を持つエキスパートが在籍しています。50 件以上のセキュリティアドバイザリを公開するほか、CVE 採番機関（CNA）としても認定されているなど、高い技術力を有しています。SBOM 統合型ソフトウェアリスク管理プラットフォーム「ONEKEY Platform」の開発・販売・提供に加え、セキュリティコンサルティングサービスも展開しており、欧州・米国・アジアをはじめとする世界各国の企業に採用されています。
URL ： https://www.onekey.com/

■株式会社ユビキタス AI（証券コード：3858）について

ユビキタス AI は、製造業のお客様を支えるテクノロジーとサービスを提供する企業です。長年にわたる組込みソフトウェアビジネスの実績をベースに、自社開発製品および世界中のソフトウェア製品の販売・サービスにおいて成功を収めています。強みである先進かつ優れたテクノロジーと強固で幅広い顧客基盤を活かしながら、製造業のお客様を支えるテクノロジー・サービスを世界に展開し続けることによって「お客様」「ビジネスパートナー」「社会」の発展に貢献します。
本社所在地 ： 東京都新宿区西新宿 1-23-7 新宿ファーストウエスト 17F

URL ： https://www.ubiquitous-ai.com/

■投資家の皆さまへ

本ニュースリリースは、ユビキタスAIの定性的な業務進捗をお知らせするためのものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当社業績・経営指標の進捗・予想に関しては、取引所開示情報である、決算短信などをご参照ください。

■本ニュースリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ユビキタスAIマーケティング＆コミュニケーション部 （担当：麻生）

TEL ： 03-5908-3451

Webからのお問い合わせ ： https://www.ubiquitous-ai.com/contact/others/

※本ニュースリリースに記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。